

松浜稻荷神社 界隈

松浜の高台にある神社

松浜稻荷神社のある場所は、高さ24.21mです。社殿の裏手には、国土地理院によって一等三角点が設置されています。これは、新潟市でたった1つの一等三角点です。

境内には松が生い茂り、鳥居の向こうには阿賀野川も望むことができます。ここには、地域の歴史を伝えるさまざまなものがあります。

まず、産土神として地域の人々の信仰を集めているのが、稻荷神社です。祭神は宇賀御魂命

(倉稻魂)で、あわせて大日靈貴尊(天照大神)、誉田別尊(応神天皇)をまつています。

このほかに、江戸時代からたびたび火事に見舞われた松浜の火除けの神様として信仰された古峰神社や、船人から信仰を集めた金毘羅神社もあります。

松浜の恩人 村山得次郎

境内には、松浜の繁栄の基礎を築いた村山得次郎をたたえる鎮徳碑も建っています。



▲松浜稻荷神社



▲140年以上の歴史をもつ松浜二・七の市

得次郎は、1873~74(明治6~7)年、阿賀野川の浅洲を新潟の湊元忠次郎の協力を得て埋め立て、新屋敷(松浜本町4)を造成しました。そして、朝市が立ち始めたこの地で、二・七を市日として市を開設したいと、1876(明治9)年に村人から県へ願いが出され、ほどなく許可となりました。

また、江戸時代以来、松ヶ崎掘

割を港として利用することを禁じた、新潟町との契約を撤廃して、開港するために尽力しました。得次郎は、1886(明治19)年に志半ばに36才で亡くなりますが、運動は引き継がれ、1893(明治26)年に交易港として帝国議会で正式に認可されました。その後、交易が盛んとなった松浜は大きく発展しました。



▲新潟市で唯一の一等三角点



▲村山得次郎の鎮徳碑

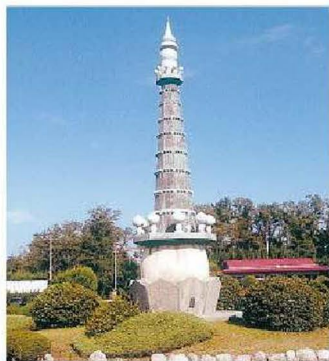
安古左エ門と義経伝説

~太夫浜霊苑と諏訪神社~

安古左エ門の旧跡

太夫浜霊苑のやすらぎ塔の南側、小高い丘の中腹に安古左エ門の観音像とお堂があります。

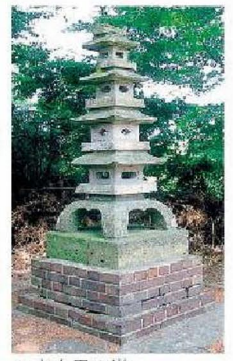
安古左エ門は主瀨の長者の一族で、多くの農民・漁民を導き、今の太夫浜の地を拓いたといわれています。安古左エ門は、大変信仰深く、日夜、観世音菩薩を尊信し、太夫浜の人々が心安らかに暮らせる地とするべく導きました。一説には、下の写真の観音像は、安古左エ門が信仰した観音像と伝えられています。



▲太夫浜霊苑やすらぎ塔
1974(昭和49)年に開苑した太夫浜霊苑。現在、総区画約7000基分の墓地がある。奥に見える丘の中腹に安古左エ門の観音像がある。



▲義経が参拝したと伝わる太夫浜の諏訪神社



▲太夫黒の塔

義経伝説

地元では、1189(文治5)年の建立と伝わる太夫浜の諏訪神社には、源義経と安古左エ門まつわる伝説が伝わっています。

兄の頼朝に追われた義経主従が平泉へ落ち延びる途中に、太夫浜の安古左エ門を頼って一夜の宿を乞いました。しかし、すでに鎌倉から義経を捕らえるようにとの連絡が入っていたので、安古左エ門はその申し出を断りました。やむなく義経主従は、付近のお堂に分宿しました。

翌朝、追っ手が、諏訪神社を参拝中の義経主従を捕らえようとした。しかし、義経主従に追い散らされ、義経はここから去っていったそうです。

このとき、義経の愛馬太夫黒がこの浜で亡くなったので、ここを太夫浜と呼ぶようになったともいわれています。諏訪神社境内(宮ノ浦)には太夫黒の墓と伝わる塔があります。もともと宮ノ前(今の太夫浜小学校のところ)にありましたが、太夫浜青年会が現在地に移しました。



▲中央が安古左エ門の観音像。左右には2体の石仏、奥にお堂がある。